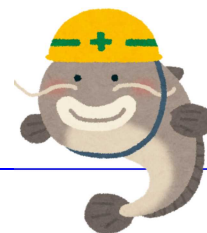


防災の日



昔から怖いものの代名詞として「地震、雷、火事、親父」という言葉があります。親父は台風のことという説もあるようですが、他にも津波や竜巻など怖い自然現象は多いですよ。9月1日は防災の日。暦の上で二百十日、大型台風が発生しやすい時期であり、関東大震災(1923.9.1)や伊勢湾台風(1959.9.26)が起きたことなどから1960年に制定されました。地震や大雨の情報がスマホに届く時代にもう一度「防災」について考えてみませんか。(高橋和子)

宮沢賢治『グスコー・ブドリの伝記』くもん出版ほか

数年前にアニメ化された宮沢賢治の作品。冷夏による飢饉で孤児となったブドリのものがたりです。異常気象や火山噴火など自然災害を予知し、被害を最小限に抑え利用するという難しいと思えることを成し遂げていきます。



いもとようこ『かぜのでんわ』金の星社 2014

東日本大震災の後、岩手県大槌町の佐々木格さんが自宅の庭に設置した「風の電話ボックス」の絵本です。会えなくなってしまった大事な人に思いを伝えたくて山の上の電話を掛けに動物たちが登ってきます。実際にはつながらない電話ですが、どうか大事な人への思いが届くようにと願ってしまう本です。

新田次郎『富士山頂』文春文庫 2012

気象庁に勤めながら作家活動をした新田次郎。実は富士山頂のレーダードームを作ったときに中心になって動いた人物です。伊勢湾台風の後、より早く台風を見つけるために富士山頂にレーダードームを設置するという一大プロジェクト。その一部始終を小説にしたものです。



復興について

柳原三佳『泥だらけのカルテ』講談社 2015

渋井哲也『命を救えなかった』第三書館 2017

「現代と保育」編集部編『忘れない! 明日へ共に』ひとなる書房 2012

防災を考える

つながる.com『被災ママ 812人が作った子連れ防災手帳』メディアファクトリー 2016

堀江譲『はれるんのぼうさい教室』東京堂出版 2015

MAMA-PLUG 編著『防災ピクニックが子どもを守る!』メディアファクトリー 2014

科学的にみて

柴山元彦『3D地形図で歩く日本の活断層』創元社 2016

山賀進『科学の目で見る日本列島の地震・津波・噴火の歴史』ベレ出版 2016

NHKスペシャル取材班『巨大津波』岩波書店 2013

ナショナル・ジオグラフィック協会『荒ぶる地球 自然災害のすべて』岩波書店 1992

児童書

八起正道『ぼくのじしんえにつき』岩崎書店 1990

野田道子『シロとのら犬たちの大震災』毎日新聞社 2005